

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 23 日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23500876

研究課題名(和文)総合的な生活資源教育からみた高等学校の生活設計教育のあり方に関する研究

研究課題名(英文)The study on the life planning education at the high school level focused the education of living resources

研究代表者

尾島 恭子(OJIMA, Kyoko)

金沢大学・学校教育系・教授

研究者番号：20293326

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、生活資源の概念整理と合わせて高校生の時期の生活設計教育の方向性を検討した。まずは、生活資源の概念について改めて整理したうえで、高校生を対象に調査を実施し、高校生がそれぞれの生活資源についてどのように考えているのかを確認した。その結果、生活資源の学びの時期には理想と現実とのずれもあることが確認できるなど、今後の高校での生活設計教育の導入に有意な方策の提案が可能となった。

研究成果の概要(英文)： The purpose of this study is to examine the way of life planning education in high school, focused the living resources. After a sort of concept arrangement, I make survey of high school students. As a results, it is important to consider with the total living resource management as life planning education in high school.

研究分野：家政一般

キーワード：生活資源

1. 研究開始当初の背景

‘生活設計教育’というと、社会人対象にはファイナンシャルプランと同義的な内容で、経済的生活資源に偏ったプログラムが組まれているものがほとんどである。その背景には、多重債務による自己破産者の増加などを背景に経済的資源が最重要視されるべき資源となっている現状がある。一方で、高等学校における生活設計教育の現状を概観すると、人生すごろくなどの教材をはじめ、自己の生き方自体を考えさせる内容で進められてきたとはいえ、そこでは金銭管理に偏重した教育が行われていることも否めない。そのような状況を反映してか、高校生に対して「将来最も大事だと思うもの」を問うと、「お金」と回答する者が多くなっている。無論、金融教育の必要性がますます叫ばれる現在において、経済的資源管理の重要性を理解させる生活設計教育が必須であることは明確であるが、生活におけるリスクが多岐にわたる現状においては、それ以外の資源 例えは人的資源としての資格獲得などの個人の能力や、对人的資源としての家族・友人など人間関係形成力 等に関する管理・経営の重要性を認識することは、将来を設計する際には至極重要なことである。ただし、学校の授業等で知識として教えても、それが生徒自身に定着していなければ意味がない。そのため、本研究では高校生を対象に調査を行い、生徒自身の意識に沿った現実的な生活設計教育の内容を検討することで、有効性のある生活管理教育を提示していくものである。

2. 研究の目的

本研究では、高校生を対象に、金銭に限らず様々な資源の重要性を自覚できる総合的な生活資源管理教育のあり方を提示することを目的としているが、それは経済的資源のみに偏重しない総合的な生活資源教育の展開を目指した一連の研究を踏まえたものである。具体的には、生活資源の概念整理を踏まえつつ、高等学校家庭科における生活設計教育の中で、総合的な生活資源管理の重要性を強調した授業内容を提案するものである。

3. 研究の方法

具体的な研究計画としては、まずは生活資源の概念について整理したうえで、高等学校において、生徒の生活資源管理意識について調査し、その結果を踏まえて総合的な生活資源管理の視点からの生活設計教育について提案を行う。なお、調査は生活設計教育の現状を踏まえた内容とするために、高等学校家庭科の教諭に事前にインタビューして現状を確認する。本研究の成果については学会等での発表により、社会に還元するとともに、実際に高校で授業の実践可能な、汎用的な題材として提案する。

4. 研究成果

研究を実施するにあたり、生活資源の概念について改めて整理した。生活資源管理意識としての調査項目は具体的には経済的資源として小遣い等の「金銭」と、モノとしての「財」、空間的資源として個人部屋等の「静的空間」と「活動空間」、時間的資源として「学業時間」「自由時間」、人的資源として「学力」「生活能力」、对人的資源として「家族関係」「友人関係」などである。高校生への調査においてはこれらの視点に基づき、各資源に5つ程度の事項をあげ、それらに対する意識についての回答を求める。

なお、それらの資源は「資源の3視点」として「すべての資源は一時点で有限」「すべての資源は増減可能」「すべての資源は交換可能」で検討を進めた。とくに、今回は3つ目の視点である「すべての資源は交換可能」であることを強調して取り組むこととした。概念的には、図1のように、各資源は関連しているという視点を重視したものである。また、具体的には例えば時間がない時にはお金を払い、タクシーを使うことにより経済的資源と時間的資源を交換しているなどのように、各資源は交換可能であり、一つの資源を別の資源に交換することで資源の増減も可能であるとの認識にたつ(図2)。

図1：生活資源の概念整理

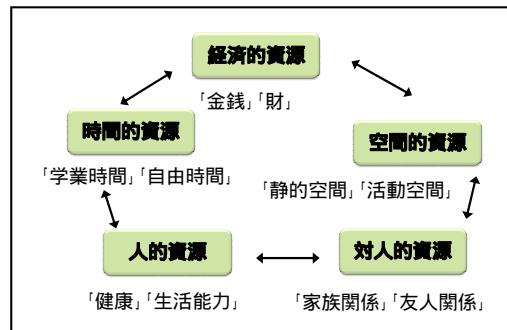


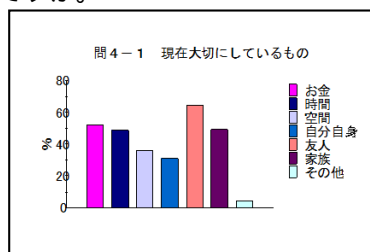
図2：資源交換の例

変換前の生活資源	変換後の生活資源	具体例
時間的資源	時間的資源	タクシーに乗車する。
経済的資源	空間的資源	広い家に転居する。
	人的資源	趣味やスポーツ、習い事などにお金をかける。
	对人的資源	贈答品を渡す。
	経済的資源	アルバイトをする。
時間的資源	空間的資源	通勤に時間のかかるところに家建てる。
	人的資源	自由時間を利用して趣味、資格の勉強をする。
	对人的資源	友人と食事にてかける。
	経済的資源	貸家や貸し駐車場。
空間的資源	時間的資源	職場・学校の近くに引っ越し、通勤・通学時間を短縮する。
	人的資源	海外に出かけて見識を広める。
	对人的資源	家で友人を呼んでホームパーティーを開く。
	経済的資源	自身の資格を活かした収入を得る(家庭教師・仕事)
人的資源	時間的資源	手際よく仕事をこなして自由時間を確保する。
	空間的資源	車の免許をとることで活動空間を広げる。
	对人的資源	コミュニケーションにより友人と関係を構築する。
	経済的資源	急なときヘルパーを頼まず近所の人に頼る。
对人的資源	時間的資源	車を持っている友人に送迎してもらおう。
	空間的資源	友人宅に泊まらせてもらう。
	人的資源	友人に趣味・勉強を教えてもらう。

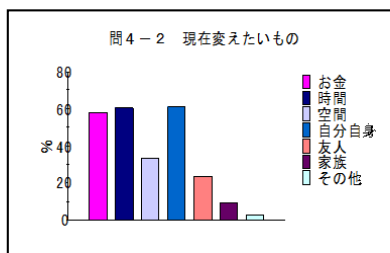
なお前述の通り、高等学校家庭科における生活資源教育を取り入れた授業の展開を目指すために、高等学校の家庭科担当教諭と打ち合わせながら研究を進めた。その際、生徒の本授業内容の取り組み方に関する意欲の強弱は、生徒自身の将来設計と大きく関わっているのではないかと仮設が提起されたため、生徒自身の将来設計と関わらせた内容で生徒の実態調査を実施した。その調査においては、高校生の時点で将来についての意識の違いが明確に判断できるものとして、「就職希望」「進学希望」の2つの進路との比較を試みた。具体的には、進路希望の違いによって「大切にしている」資源意識は異なるのではないかと、また、生活資源の学びの記憶や要求も異なるのではないかと、という内容についての調査である。対象とした高校は、金沢市内のH高校であり、2013年3月に2年生(有効回収数161)を対象に調査を実施した。調査対象者のうち、就職予定者は3割、進学予定者は6割、その他は迷っている者などである。

調査の結果、全体として、生活資源の学びの時期には理想と現実とのずれもあることが確認できた(下記3問)。

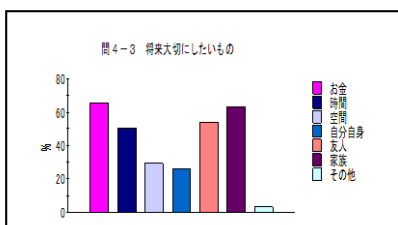
問：現在のあなたが大切にしているものは何ですか。



問：現在のあなたを変えたいと思っているものは何ですか。



問：将来のあなたが大切にしたいものは何だと思いますか。



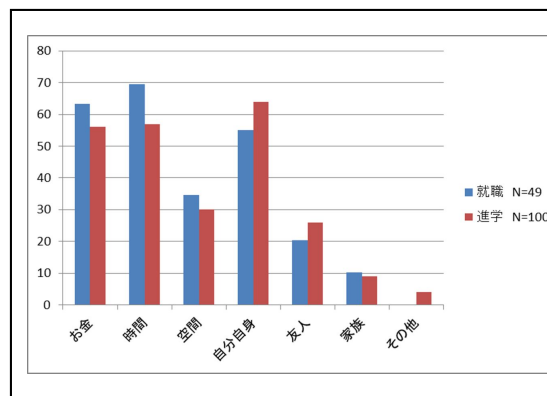
前述の「現在のあなたを変えたいと思っているものは何ですか。」という問いを人数・割合で見ると、下表1のように、時間の使い方をを変えたいと答える生徒と、自分自身を変えたいと答える生徒が6割ずついることも確認された。

表1：現在のあなたを変えたいと思っているものは何ですか。

カテゴリー	度数	%
お金	94	58.4
時間	97	60.2
空間(静かな環境や自分の居場所)	54	33.5
自分自身(命や体・自分の気持ち)	98	60.9
友人	38	23.6
家族	15	9.3
その他	5	3.1
サンプル	161	100

これらの相違は自身の「将来に対する意識」の差異により、「現状の資源管理意識」の差異が生じるのではないかと考え、進路の違いで資源意識や学びについての比較も試みたが、明確かつ如実な相違は確認できなかった(図3)。

図3：現在のあなたを変えたいと思っているものは何ですか。(進路希望別)



これらのことから、高校生の資源管理について、「時間の使い方」や「自分自身」を変えたいと思っている生徒が多いが、自身の将来設計と関連付けて考えているわけではないことも明らかになり、これらの調査を通して今後の課題としては、

- ・現時点での管理状況と、将来予想される管理状況を関連付けることが必要であること、また、
- ・資源の3視点である「すべての資源は一時点で有限」「すべての資源は増減可能」「すべての資源は交換可能」を確認し、今は足りなくても増やすことが可能であること、また他資源との交換により増やすことが可能であることを強調した生活設計教育が重要であることが導き出された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

尾島恭子

「高校家庭科における生活設計教育の課題」
日本家庭科教育学会北陸地区会 30 周年記念誌『生活を考え創る』 家庭科教育学会北陸地区会 pp.17-30,2013. (査読有)

〔学会発表〕(計 1 件)

尾島恭子

「生活資源の概念整理と高校生の生活資源に対する意識」
(一社)日本家政学会第 67 回大会 2015.5.22~24. いわて県民情報交流センターアイーナ(岩手県盛岡市)

6. 研究組織

(1)研究代表者

(1)研究代表者

尾島 恭子(OJIMA Kyoko)
金沢大学・学校教育系・教授
研究者番号：20293326